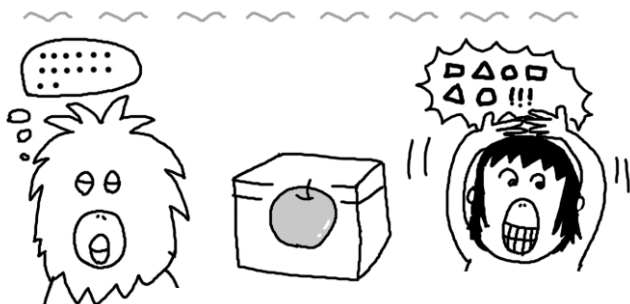


チンパンジーとオランウータン

2023・10・24 重枝 一郎

本校のある学年の学年集会に呼ばれたときに話した内容である。

下の絵を見なさい。鍵のかかった箱の中に果物がある。



チンパンジーは鍵を触りながらガチャガチャ動かし、10分後に鍵を開け果物を食べた。

オランウータンは鍵をじっと見つめ、10分後に鍵を開け果物を食べた。

どっちがすごい？

「チンパンジーだと思う人」なぜ？「すごく積極的にがんばったから」「オランウータンだと思う人」

なぜ？「とても落ち着いて思慮深く行動しているから」

ではどっちが早かった？「同じです」

これはどっちも同じくらいすごいと言える。

これはいいチンパンジー（積極的）といいオランウータン（思慮深い）ということ。

これをチンパンジーA、オランウータンAとする。観点別評価ABCに置きかえて考えると、どちらも思考しているから「A」ということ。授業中のみなさんに置きかえてみると、チンパンジーAは積極的であり発表もできる。しかもタイミングを考えて発言できる人のことになる。オランウータンAは落ち着いて思慮深く、ノートをきちんと整理している人のことになる。

ところが、授業中、発言のタイミングも無視し、自分勝手な言動をする人は悪いチンパンジーであり、チンパンジーCということになる。また、授業中、人の妨害はしないが、ボーっとしていたり居眠りをしていたりする人は悪いオランウータンであり、オランウータンCということになる。ただ静かにしていてもダメである。

あなたはチンパンジータイプですか？ オランウータンタイプですか？「拳手」。

評価「A」をもらうためにはどっちのタイプでもいいが、思考していることが絶対条件である。当然どちらかの「A」を目指すことになる。ここでアドバイス！自分がチンパンジーCでチンパンジーAになろうと短絡的にしない方がいい。せいぜい「B」で落ち着く。そこで、逆のオランウータンAを目指すことをしてみる。チンパンジーCなら授業中落ち着いて考えながらノートを整理する。それを授業後に先生に見てもらう。そうすることが、実はチンパンジーAになるための秘訣である。みなさんの成長には「たし算」が必要だから。同様に、オランウータンCがオランウータンAになろうとするなら、授業中1回でいいので発言してみる。このように逆を目指すとは意外と異質な分、大きなたし算ができ成長できる。それが“成長はたし算”の原理である。同質だと大して「たし算」はされていないことが多い。異質だとしっかり「たし算」されて、目指すAに実は近づいていく。

チンパンジーCはオランウータンAを目指し、オランウータンCはチンパンジーAを目指す。つまり、異質とつながるとのこと。（校長研修だより119号）

私は、授業が騒がしいクラス、ダラダラしているクラスに黒板に下手な絵をかきながらこんな話をしていた。このような話を私は「第1の矢」として話す。第2の矢は、正論的な当たり前の話になる。

生徒・教師共に「異質」をたし算して、「行動のレパートリー」を増やしていく。